

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年4月21日 (2011.4.21)

【公表番号】特表2003-505345(P2003-505345A)

【公表日】平成15年2月12日 (2003.2.12)

【出願番号】特願2001-502855(P2001-502855)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/56 (2006.01)

A 6 1 K 31/565 (2006.01)

A 6 1 K 31/566 (2006.01)

A 6 1 K 31/568 (2006.01)

A 6 1 K 31/5685 (2006.01)

A 6 1 K 31/58 (2006.01)

A 6 1 P 5/26 (2006.01)

A 6 1 P 5/30 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 37/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/56

A 6 1 K 31/565

A 6 1 K 31/566

A 6 1 K 31/568

A 6 1 K 31/5685

A 6 1 K 31/58

A 6 1 P 5/26

A 6 1 P 5/30

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 37/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年2月25日 (2011.2.25)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 5 】

従って、「非経口」の用語は、腸管外、局所、吸入、植込み、眼内、鼻内、腔内、直腸内  
処方剤および投与である。さらに、植込み処方剤は、植込みの身体位置とは無関係に「非  
経口」の用語に加える事とする。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 6 】

「腸管外」投与は、薬剤組成品を静脈内、動脈内、筋肉内、髄腔内または皮下などに注入

する事によって達成できる。

「局所処方剤」は、皮膚表面への直接適用のための薬剤を配置でき、そこから有効量の薬剤を放出する組成品を意味する。局所処方剤の例は、その限りではないが、軟膏、クリーム、ゲル、経皮パッチ、スプレー、膺リングおよびペーストを含む。「経皮」とは、薬剤の皮膚表面からの移行を促進する投与経路を指し、経皮組成品は、皮膚表面に投与する。